

飯島賢二の

やさしく解決！ 難問道場

第43回



株式会社 飯島 綜研 代表取締役 飯島 賢二

Q 2008年の経済をどのように予測したらよいでしょうか？

A

いよいよ2008年、色々な経済研究所、学者の先生方の予測が発表されていますが、「予測」なるものがほとんど当たったことがないのも事実です。今回は、長嶋茂雄流の「動物的勘」で小生なりの“2008

年間違って当たり前的大予測”をしましょう。

まず、何度となく警鐘を鳴らしてきましたが、今の時代、国内事情だけで経済や政治が動いているわけではありません。世界の経済政策の潮流に、日本だけが無視され続けている状況は今年も変わらないでしょう。

「円」に対する評価がどうなるかが最大のポイントといえるでしょう。現状はかろうじて「円高」で推移していますが、これは「円」の実力というよりは「ドル売り」傾向とあって良い。いわゆる「ブッシュ売り」であり、ドルの実力以上に過小評価されています。でも、ドルの底力はこんなものではないと思っています。ドルに代わり「ユーロ」、ましてや「元」が世界の基軸通貨になる日は、恐らく小生が生きている時代には到来しないでしょうし、新しい大統領が決まり次第、ドルは再び力を持ち始めるのに違いありません。

今年はサブプライムローンも落ち着くはず。シティグループもすでに万全の体制を整えました。オイルダラーの行方は、投機筋もそろそろ投資に向け

て動き出しており、そのマーケットは世界市場となっています。この時期は2008年初頭と見ます。詳細の微視的状況は専門情報をご覧ください。

ともかく日本の2008年は「インフレ」傾向に向かうはず。原油の価格上昇は一段落しますが、かつての価格には戻らず、原油の高騰は建材・建設関連、衣料、自動車、食品と多岐多様にわたって諸物価を上昇させます。2月までに公共料金も値上げが続くでしょう。株価は、個人投資家の6割が外国人なので、その実態は日本売りに走っています。外貨準備高は中国に抜かれ、世界的に安全性を誇示しにくくなります。日銀は金利を上げないといっていますが、どこまで耐えられるか、はなはだ疑問です。いくら国債費を削った予算を作っても、金利が上がれば「絵に描いた餅」で現内閣の政権維持は厳しい状況が予想されます。政治が混乱すればするほど世界的信用度が凋落します。物価が上がって個人の所得もそれに伴い上昇すればいいが、そうはいかないのが今の状況であり、個人消費が伸びない限りGDPも増加しません。

いやはや、「負の連鎖」です。こんな脅しをかけながら飯を食っているのが「評論家」。

そうはいかずと頑張るのが、実は2008年の最大のテーマでしょう。原点回帰、本業全う、真剣勝負、つまり「前進・発展・向上」の真価が問われる年だと認識しています。

「これからも、ずっと中小企業の強い味方であり続けたい…」

日本経済を支えている中小企業をあらゆる面からサポートし、ご満足いただく。ここに、当社の存在価値があります。

IKG 株式会社 飯島 綜研

代表取締役会長 飯島 賢二
税理士・中小企業診断士

〒360-0024 埼玉県熊谷市間屋町2-4-18 ソシオ熊谷情報センター2F TEL 048-528-2191 FAX 048-528-2197
IKGホームページ <http://www.ik-g.jp>